

# NEWS

## 都市環境デザイン会議(仮称) 設立準備会ニュースレター

発行者：都市環境デザインを考える会  
世話人グループ

2

1991.3.1



都市環境デザインに関心をもたれる方々の集まりである新しい組織を設立するために、過日ニュース・レター第1号を皆さんにお送りし、新組織の設立を呼びかけましたが、皆さんから高い反響がありました。

その後、世話人会では皆さんからの意見を考慮しつつ、新組織のあり方について議論を重ねてますが、その内容をニュース・レター第2号として報告し、再度皆さんからの意見を求めます。

### ■世話人グループ(アイウエオ順)

上野 泰	加藤 源	岸井 隆幸	窪田 陽一	黒川 淳子
佐々木政雄	佐野 寛	篠原 修	菅 孝能	曾根 幸一
高橋志保彦	高見 公雄	近田 玲子	土田 旭	長島 孝一
鳴海 邦穎	南条 道昌	西沢 健	西脇 敏夫	林 泰義
松谷 春敏	面出 薫			

## I ニュースレター第1号の

### 1. 発送数並びに返信数

#### 返信状況と結果

(平成3年1月25日現在)

- 発送数：第1次 約 330通

第2次 約 70通 (ニュース・レター第1号に同封した(返信)で紹介のあった方に対して発送)

- 返信数：109通 (第1次、第2次合わせて)

### 2. 分野別返信数

返送された方々の専門分野は概ね以下の通りでした(世話人会の判断を含む)。

分 野	人 数	構 成 比	内、意見記述有り
アーバン・デザイナー	13 人	11.9 %	8 人
都市計画コンサルタント	29	26.6	21
土木設計家	0	0.0	
建築家	13	11.9	3
造園家	11	10.1	6
I. D. & V. D.	10	9.2	8
照明デザイナー	0	0.0	
芸術家	1	0.9	
出版、報道	3	2.8	2
大学人	12	11.0	5
公共団体等職員	15	13.8	12
その他	2	1.8	1

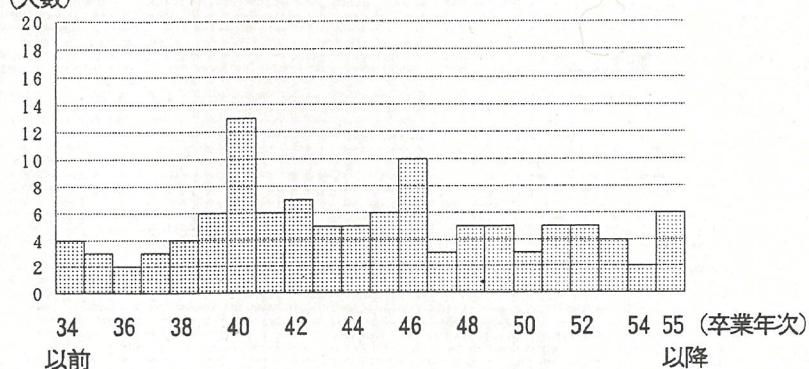
### 3. 会の名称に関する意見

新組織の名称についての問い合わせの結果は以下の通りでした。

名 称	人 数	割 合
1. 都市環境デザイン会議	64 人	58.7 %
2. 都市環境デザイナー協会	40 人	36.7 %
3. その他(無回答含む)	5 人	4.6 %

### 4. 返信送付者の年齢(大学卒業年次)

(人数)



## 5. 参加にあたっての意見

意見欄へは、広い範囲にわたって多く意見が寄せられました。

- ・あらゆる職能、職域で会ができるることは喜ばしい。さらに国際的なネットワークのもとで提言等を出していきたい。
- ・多様な分野の連携を図る意味で意義が大きい。情報交換の場等として期待する。（大勢の意見）
- ・都市環境デザインを新しい分野と捉えず、現代日本の中で忘れられていた領域と考え、表層だけの流行としないように。
- ・日本の都市デザインはハード偏重でソフトが遅れている。この会を通じてその改善、解決のアイデアを望む。
- ・行政主導に任せず、活動を通じて民間デザイナー参画の道を開く。
- ・ハード屋さん以外の参加を求めたい。
- ・区画整理、再開発等、基盤整備と上物、緑化を合わせた抜本的都市環境デザインの啓蒙母体となることを期待する。
- ・都市環境デザイン会議が年1回各地巡回方式で開催されることを希望。
- ・より現場的な都計法、建基法に踏み込んだ議論を展開したい。
- ・歩きながら方向を探ることが望ましい。
- ・例会を活発化すべき。ニュースにはくたびれないような編集方針が必要。
- ・都市環境に関わりを持つ層は広く、「会議」が望ましい。
- ・よい環境を作り、社会的認識を高めたい。
- ・運動的視点を持って考えたい。一般の人の無関心に働きかけていく団体になりたい。
- ・一般の人々の空間デザインに対する意識やセンスを高めるような場の提供を大きな柱とする必要がある。
- ・計画論とデザインの仲を取り持っていきたい。
- ・職能規定、料率等の明確化に期待する。
- ・これを機会にモノやカタチから都市を考えたい。
- ・都市環境のありようについての注文を受け止められるようなコミュニケーションの場となることを期待する。
- ・社会構造を代表して実効している組織、個人と都市環境についての適切なインターフェイスができる団体が必要とされている。
- ・生活環境について興味がある。都市だけに限定することは気になる。
- ・サロンは山ほどあるので、地味でもしっかりとした専門家集団としては社会的発言力につけていくことが重要。
- ・具体的に有効な方法、手法が実践を通じて採れる場を作り出していきたい。
- ・20才台後半から30才台前半の人たちが積極的に活動できる条件を用意できる組織。多分野の意欲的な女性が積極的に参画できるような組織。
- ・国内だけでなく、諸外国も含めたデザイン・サークルを期待したい。
- ・東南アジア地区等、海外との交流が組織的にできると良い。
- ・「環境設計」の領域、社会的役割についてもう一度考えてみたい。
- ・縦割り社会の中で満足のいく総合的意匠計画は不可能に近い。意識ある人々の横の連携強化は硬直化した社会システム改善の唯一の方策である。
- ・都市環境デザインの向上、設計システム、背景となる社会システムの変革を願ってやまない。
- ・いたずらに膨張することなく、中味の濃い集まりであればと思う。
- ・まずは生業をしている人、発注者、活動実績のある人をコアとして一定の範囲でスタートさせることが良い。
- ・街並みのデザイン・コントロールと単体の建築設計との連携のためには、強力な手法が必要。情報ネットワークの必要性を感じる。

- ・都市構造をスッキリさせ、都市景観をハッキリと分かり易い方法で捉え、実践していくような組織でありたい。
- ・対象領域を都市に限定する必要はない。環境デザインは浮いたものではなく、地域との係わりを持つべきものであろう。
- ・会の人事には各分野、各年令層を重層的に採用して欲しい。本音で語り合える場づくりに期待する。
- ・専門家の情報交換の場の他、市民が感じとっている環境的問題を丹念に拾いあげ、問題提起していくことが重要と考える。
- ・外部空間に彫刻を設置することが増加しているが、殆どがミスマッチである。景観としての環境を総体的に捉え直す必要がある。
- ・日本一のエントツ文化都市を目指しています。ご指導ください。
- ・人の組織であること、都市環境の創造が幅広い分野にわたるため広い意味を込めて、デザイナーの名称がふさわしい。
- ・メンバーが東京と大阪に偏っている。地方への働きかけを行う必要がある。

都市環境デザインを考える会〈関西グループ〉から（投稿）

- 関西における2回の意見交換会による意見が指し示している活動の方向は、以下の通りである。
- ・都市環境デザインに関する領域はさまざまであり、当面はそれぞれの質が向上すればよい。総合化は時間をかけて考えていく。
  - ・今必要なのは、都市環境デザインに関する仕事の価値と面白さを社会に向けて発信することではないだろうか。
  - ・組織的にはあいまいでも、まずパブリケーションに重点をおいて活動するのはどうだろうか。

## II 世話人会におけるその後の議論

### 1. 会の名称と参加者について

- 会の名称は当面「都市環境デザイン会議」とすることが適切ではないか。
- 会の運営を考え、会の活動を活発に維持し、中味の濃いものとしていくためには、参加者は「仕事を通じて」都市環境のデザインに係わっている人達とすることが適切であろう。

皆さんの意見を踏まえて、新組織の名称は「都市環境デザイン会議」とすることが適切と考えるが、ニュース・レター第1号には会の名称をもう一つの候補として「都市環境デザイナー協会」を掲げたことから、ここでこれまでの世話人会における議論を段階的にもう一度振り返り、新組織設立の主旨、狙い、また参加者の範囲等について確認しておきたい。

① 今日、「デザインの時代」と言われ、都市環境のデザインに多くの関心が持たれていることは喜ばしいことであるが、要素相互間の総合性についての配慮が欠けている等、単なる「デザイン氾濫」の状況にあることは懸念せざるを得ない。総合性を高める必要性を強く感ずる次第であるが、懸念される状況は具体的に例えれば以下のような状況である。

- 都市環境を構成する要素は、道路、広場、橋、建物、植栽、彫刻、照明、……等々多様であり、これらに係わる分野それぞれにおいてはよりよいデザイン、環境の形成を求めて努力が続けられているが、これらを総合化して全体としてより高い水準の都市環境を形成するために必要とされる各分野をつなぐ社会的なシステムは、事業主体、あるいはデザイナーの側においてもほとんど構築されていない状況にある。都市環境の形成に係わるデザイン各分野、各立場を総合的に融合し、各分野、立場の人々が相互に意見を交換し、時には一体となって都市環境の形成に取り組み、また新たな情報を発信していく組織の形成が急がれている。
- また、個々の問題点としては、以下のような望ましくない状況が挙げられる。 今日、生産技術の進歩とともに都市環境を構成する構築物の表層や仕上げに使われる材料、さらには器具が、多種、多様になりつつある中にあって、これらをデザイン的に性能の上でも適切に使いこなさず、材料、器具等メーカーが提供するカタログのみをたよりに表層が造られつつある。また、表層のみが化粧されつつある。

都市環境のデザインに際して、その地域の歴史、風土によりどころを求めるることは大切なことであるが、個性的であろうとするあまり、結果として、他との差異化を求めて奇抜なデザインが増えつつある。

大手資本による大規模再開発が多くの地区でなされつつあるが、資本の論理が優先され、造りだされた都市空間が街との折り合いを適切につけていない場合が多い。

② このような望ましくない諸々の状況を改善し、デザイン的に総合化された都市環境を造り出していくためには、都市環境のデザインに高い関心を持ち、「仕事を通じて」様々な形でこれに係わっている人達が集まり、意見を交換し、自ら切磋琢磨するとともに、優れたデザインを社会に送りだし、様々な社会的な要請にも応えていく必要がある。

③ 仕事を通じなくとも都市環境のデザインに関心を持ち、発言している人は多いが、まずは「仕事」としている人達が中心となって、各分野、各立場の人々が相互に力を合わせて都市環境の形成に取り組むことが、世の中に対して「良い手本」を示す早道であり、また現状を改善していく上では効果的であろう。

④ また一方、会の運営を考え、会の活動を活発に維持し、中味の濃いものとしていくためには、参加者は一定の範囲に絞らざるを得ないであろう。

⑤ このようなことから、参加者は「仕事を通じて」都市環境のデザインに係わっている人達とすることとし、大別すると、以下のようないくつかの範囲になるのではないかとこれまで考えてきている。

- A 都市環境を造る人（事業主体、すなわち行政体、不動産会社等に所属する人）
- B 都市環境の形成をプロデュースする人（都市環境の形成に係わる様々な侧面について様々に企画し、調整を進める人）
- C 都市環境をデザインする人（多分野にわたるいわゆる専門デザイナー）
- D 上記以外で都市環境に関する様々な事象を仕事の対象としている人（大学人、ジャーナリスト、法律家等）

⑥ そこで新組織の名称であるが、「都市環境デザイナー協会」とすると、上記のうちB、Cのグループの人達にとっては都合がよいが、A、Dの人達の多くにはしっくりこない。また、新組織を作る主旨は上記②、③の考え方からいわゆる「職能集団」を作ることではなく、このようなイメージを与えるものは適切ではない。こういったことから、新組織の名称はもう少し幅広いイメージを持ち得るものとすることとし、「都市環境デザイン会議」とすることが適切なのではないか。

⑦ ここに至ってニュース・レター第1号への返信に見られる皆さんからの意見であるが、披露された意見は「都市環境デザイナー協会」として「職能集団」とすべきとする考え方から、「都市環境デザイン会議」として「仕事」とせずとも発言している人や都市環境に関心を持つ一般の人達も加えるべきとする考え方まで幅広いもので、参加者の範囲についての上記のような考えは幅広い意見の中間に位置することにもなり、これまでの世話人会での議論と皆さんの意見とは概ね一致すると理解できる。

## 2. 入会資格について

- 年令制限は設けないが、若年、高年とも一定のラインは見えてこよう。
- 入会に際しては、実践の内容や経験が若干吟味されることになるであろう。

■ 特に年齢制限を設ける必要はないが、上記のような主旨からは、まずは上記A、B、C、Dの分野の「現場」で、すなわち第一線で仕事をしている人の集まりとすることがよく、この結果、参加を考える人自らの判断で若年については一定の経験を持った人、高年についても自ずと一定のラインが見えてくるのではないかというふうに考えてきている。

因みに、ニュース・レター第1号をお送りした方達は、世話人が各自に、また自由にそれぞれの分野、立場の中から「参加してほしい」あるいは「参加してくれるだろう」と考えた人達となっており、結果的には30代の半ばから50代の半ばぐらいの人達が多くなっている。

■ 入会資格も厳密には問う必要はないが、自らの「仕事」を通じて都市環境デザインを様々な分野や立場で実践する人々の集まりであることから、入会に際しては実践の内容や経験等が吟味されることになるであろう。

## 3. 会の組織について

- 会の役職並びに運営の図式は、複数の代表幹事の合議制としていくことが考えられる。

■ ニュース・レター第1号で示した顧問、会長を置く図式は、会員外から“いただく”ようなイメージがつきまとう。これは新組織設立の主旨とはずれているため、再検討する。新組織の代表者が何らかのかたちで必要なことは当然だが、顧問は不要であろう。

■ 新しい案としては、複数の代表幹事が合議制で会の運営に責任を持つこととし、代表幹事は先のA、B、C、Dの各職域、またCの中の各専門分野を網羅するかたちで選ぶこととし、同時に代表幹事は様々な会の活動それぞれをリードしていく役割を分担することとするというような図式が考えられる。

■ 一方、対外的には会の代表者が必要となるが、代表幹事の中に総務担当を置けば足りるであろう。

## 4. 地方組織について

- 地方単位での活発な活動に期待するとともに、これを支援する体制を整える必要がある。

■ 活動において重要なのは、各地方、地域、都市からの情報発信である。そのためには適切な地方単位で活動を活発化するとともに、これを支援する体制を整える必要がある。

■ また他の地域、都市の人達との人的交流を望む人は多いはずであり、「都市環境デザイン会議」の社会的位置づけ、性格はこのような実質的な活動を通じて醸成されるものである。

## 5. 他の研究グループ、活動グループとの関係について

- 既に活発な活動を行っている各専門分野のグループ、団体に対しては、わが国の都市環境デザインの向上に向け、ともに手を携えていきたい。そのような主旨も含めて、新組織は原則個人参加として、これらのグループ、団体に既に属している人達の参加も大いに期待したい。

### III 活動内容

活動内容については既にニュース・レター第1号で概略を示したが、ここにより具体的なイメージを示し、さらに意見を求めたい。

#### 1. 例会、総会

- ・ 各々の地域活動単位で数回の例会を持つ。情報交換がなされ、また運営事務的なことも当然話題となるが、できれば各回ごとに主題を設けて、あるいは他地域からの人を呼ぶなどして意見交換が行われ、記録されることが期待される。その記録は会報で紹介されるべきである。
- ・ 総会は年1回開催することとし、会員にとって有意義なテーマでシンポジウム等を開催する他、イベント（お祭り）としての交流を積極的に考える。

#### 2. 会報

- ・ 年数回発行
- ・ 例会における討論の紹介、各委員会の活動報告
- ・ 各地方、都市での都市環境デザインに係わる作品、事業、活動の紹介、コメント
- ・ 都市環境デザインに関する主張、論文の発表、感想、解説等の掲載
- ・ 都市環境デザインに関する技術資料の掲載、等
- ・ 会報のページ数が多くなることは辞さないが、薄くなることも恐れない。話題に軽重によらず、ホット・ニュースが発信されることが重要。全国の会員からの活発な投稿、企画立案を期待する。

#### 3. 委員会

- ・ 会報の編集を担当する編集委員会、イベント、研修会等各種の事業の企画、運営にあたる事業委員会、マニュアル、ガイド・ブック、テクニカル・ペーパー等の情報を発信する情報発信委員会等、会の活動、運営に必要な委員会を設ける。
- ・ また、会員の発意等により、「都市環境デザインをめぐる社会的枠組みに関する研究」、「都市環境デザインに係わる人材の育成について」等都市環境デザインの向上に必要とされる特定のテーマを取り上げ、自主的に研究する委員会等、特定のテーマごとにも一定期間委員会を設ける。このような委員会はコアとなるメンバーが委員となり、当該のテーマについてシンポジウムを開催し、全国から関心のある人が集まり議論に加わる等の図式も考えられる。

#### 4. 名簿の作成、年鑑の発刊

- ・ 名簿は分野別とし、異分野交流が図り易く、また一方では各分野の活動が容易となるよう配慮する。そのため、氏名、勤務先名、連絡先等からなる名簿の他、各人の活動内容、作品が併せて紹介されている「デザイナー名鑑」の作成を進めることも考えられる。
- ・ 年鑑は、新聞、雑誌、行政情報、個人情報等により、都市環境デザインに係わる事業、制度、社会的動き等を網羅し、編集する。会報による情報交流をベースとすることが大切であり、会員の協力が必要である。

また、事例を中心に担当者、設計者、利用者、年鑑編集委員会のコメントつきで掲載したい。

#### 5. イベント等

- ・ 都市環境デザインに関するシンポジウム、展示の他、国内・海外事例の視察、勉強会等。
- ・ 他団体、地方公共団体等との共催も考えられる。

## IV 財政基盤について (再確認)

新組織の財政基盤については、重要なことであるので再度確認してください。

### 1. 年会費等

- 基本的な活動については、入会金と年会費でまかなう。ニュース・レター第1号で示した。

入会金：2万円 程度

年会費：2万円／年 程度（毎年）

については特段の意見は見られない。

- また、財政基盤を強化するために、参加する個人が所属する企業等から、法人協力金を得たいと考えている。この法人協力金についてもニュース・レター第1号において示したが、この点についても特段の意見は見られない。なお、法人協力金については、会員が所属する組織の特性を考慮し、企業等の構成メンバーが10人程度まで：1口5万円以上

上記以上 : 2口以上

を想定している。

### 2. 賛助会員等

- 会の活動を筋の通ったものとするために、民間企業をはじめ組織を対象とする賛助会員は設けない。従って賛助会費等経常的な資金協力はいずれからも受けない。

ただし、年鑑、名簿等の出版や例会以外のイベント等個別事業については、その都度広告料、協賛金等により協力を仰ぐこととしたい。

Attention!

●新組織の発足について――

新組織に係わる上記までの枠組みは、今後の皆さんからの意見も踏まえて、さらに吟味され、より妥当なものになると期待されますが、

新組織の発足の日を平成3年5月11日(土)

と予定いたしましたく、手帳の上で当日をブロックしておいて下さい。詳しい時間、場所等については追ってニュース・レター第3号でお知らせします。

●ニュースレター(返信)の返送について――

新組織の発足の日を上記のように予定すると、世話人会は適切な大きさの会場を予約することをはじめ、そろそろその準備に取り掛かる必要があります。

新組織への参加の意向をお持ちで、ニュース・レター第1号の返信をまだ送られていない方は「ニュースレター(返信)」を再度同封致しますので、3月25日までにご記入の上、下記にご返送下さい。

なお、返信用封筒(含切手)は各自でご用意下さい。事務処理上、FAXによる送付はご遠慮下さい。返送は郵便に限らせていただきます。

返送先：日本都市総合研究所 高見公雄 宛

〒102 東京都千代田区平河町1-8-3 斎藤ビル

## ■ニュースレター(返信)

●参加希望者は以下にご記入の上ご返送下さい。尚、返信用封筒(含切手)は各自ご用意下さい。  
事務処理の関係上、FAXはご遠慮下さい。返送は郵送に限らせていただきます。

返信先：日本都市総合研究所 高見公雄 宛  
〒102 東京都千代田区平河町1-8-3 斎藤ビル

Attention!

### ■参加意志のある方会員名簿原稿（簡単な活動歴）

フリガナ 氏 名		
都市環境デザイン に係る分野・領域		
上記分野における 活動歴 (企業内活動含む)		
出身校		卒業年次
勤務先		
勤務先所在地	④	TEL FAX
自宅住所	④	TEL

### ■参加にあたってのご意見をお聞かせ下さい。(できればワープロ、貼り込み)

■新しい組織の名称について現在のところ下の2案が候補に上っています。  
その他も含めて、これらのうちいずれが適切か、ご参考までにご意見をお聞かせ下さい。

1. 都市環境デザイン会議
2. 都市環境デザイナー協会
3. その他 [ ]

Attention!

■ 呼び掛け範囲を広げるための推薦をお願いします。  
(リストが届き次第ご本人に本ニュースレターをお送りします)

※ニュースレターをお送りした前記以外の方をご推薦下さい。  
また、新しい組織設立の趣旨に鑑み、極力若手の方(概ね55才以下)をご推薦下さい。

氏名	勤務先名	勤務先所在地	電話／FAX
		〒	
		〒	
		〒	
		〒	